

明全会新メンバー



笛吹市 **前島 茂松** まえじま しげまつ
長い県議会議員活動の中で得た知識と経験を、若い仲間とともに県議会改革に生かしていきます。

明全会タウンミーティングを開催

山梨県議会会派「明全会」は、平成23年度に県内3箇所ですべて「明全会タウンミーティング」を開催しました。



平成23年9月9日
甲府市・アルフィー
50人を超える若い世代が集まり、活力ある県民経済の発展についての意見交換がなされた。



平成24年1月29日
富士吉田市・富士五湖文化センター
100人を超える人が集まり、県議会の役割と、富士五湖地域の振興について意見交換をしました。

平成23年5月20日
笛吹市・石和温泉足湯広場
県の観光宣伝の方法や、節電対策としてのLED電球への切り替えに対する助成などの要望がありました。
会報Vol.2(23年7月発行)で報告

今後も、県政に対する県民の意見や要望を聞き、議会活動に反映するため、県内各地で開催していきます。

平成23年12月 明全会 県外研修

12月20日 スプレット亀岡プラント

年間20回の結球レタスの栽培をする野菜工場です。深夜電力と蛍光灯の使用によりコスト削減を行い、販路開拓は、トレスビリターと食の安全を基本としている。



12月19日 京都府：京セラ株式会社 本社

稲盛創業者の経営哲学「京セラフィロソフィ」に基づいた環境マネジメントと社員研修を行っている。仕事の結果＝考え方×熱意×能力



12月21日 京都大学 産学官連携本部

京都大学は産業界との共同研究を効果的に進めるために新たな仕組みを創設した。



2012/04
【発行元】明全会

山梨県議会会派

一年一年が勝負

明全会

Vol.3

めいぜんかい

新人議員を迎えて新たにスタートした明全会も任期の四分の一にあたる1年間が終わろうとしています。議員にとつての1年間は早いものです。

明全会の1年を振り返りますと、新人議員のパワーに圧倒された1年と言えます。常に前向きで、地域の夢を実現させようとする新人議員の姿に敬服します。

他会派の関連質問の廃止、明野・境川両処分場問題、そして年末には百億円を超す高度化資金の債務処理問題や(財)山梨県消防協会の女性職員による不正経理問題など、会派としての対応を迫られる重要な場面が数多くありました。

従来でしたら、ベテラン議員の主張が全体を支配し、議論に参加できない新人議員は時には地元へ帰ってからの批判に耐えることができないこともありま

した。明全会では、新人議員であっても会派で決定した主張を地元へ帰ってしっかりと地域住民のみなさまに説明できるようにと、問題の本質を捉え議論を重ねることに多くの時間を割いてきました。

2年目となる平成24年度もタウンミーティングを積極的に実施し、議会内での議論を県民のみなさまに広く伝えていくことに努力していきます。

とかく見えにくいと言われている県議会の活動を積極的に県民のみなさまに伝えていきます。3月21日に前島茂松議員が新たに加わり明全会も8名となりました。県議会改革派、明全会の活動にご期待下さい。



私たちは山梨県民の生活の向上と二元代表制の本旨に基づいて行動します。

「公人への警鐘」

西八代郡 丹澤 和平 たんざわ かずひら

爾俸 爾禄 (なんじのほう なんじのろくは)
民膏 民脂 (たみのこう たみのしなり)
下民 易虐 (かみんは しいたげやすきも)
上天 難欺 (じょうてんは あざむきがたし)
二本松藩 (福島県二本松市) の5代藩主丹羽高寛公が、藩士の戒めとするため、寛延2年 (1749年) に城の入り口の自然石に刻ませた戒文です。

これは「あなたの俸給は、人々の汗と脂の結晶である。弱い人は虐げやすいけれども、天を欺くことはできない」と解釈されています。

県は、中小企業者が設立した7組合に124億円を融資しました。しかし、返済額は、わずか16億5千万円で107億円余が焦げ付いてしまいました。

この貸付制度は、銀行が融資しないようなリスクの高い事業に、県が融資する仕組みですから倒産の可能性は当然、高くなります。また、行政は、法律や条例に定められたとお

りの手続きを行なっていれば、非難されたり責任が生じたりすることはありません。

こうした理由から、この問題を検証するため設立された第3者委員会は、「県にも職員個人にも責任はない」と結論付けました。

確かに、法律や条例に基づいて手続きが行われていれば責任を問われることはないかも知れません。

しかし、国や県の予算のすべてが「民の汗、民の脂」の「たまもの」であることを念頭においたら、このようなことにはならなかったのではないのでしょうか。

「爾俸、爾禄」で始まる16文字に託された真意は、私たち公人への警鐘であり戒律でもあります。



「ドクターヘリ、全県へスタート」

都留市・西桂町 森屋 宏 もりや ひろし

本年4月1日からドクターヘリの全県への本格運航がスタートしました。富士東部地域では、神奈川県伊勢原市にある東海大学付属病院のヘリが両県の共同運航という形態で平成15年から導入され、活躍してきました。

ドクターヘリは、従来のように防災ヘリを使って行なわれてきた患者の病院間搬送とは異なり、直接医師と看護師がヘリに乗って現地に駆けつけ治療を開始します。全国を見ても人口百万人未満の県では、山梨県は高知県に次ぐ二番目の実施です。また、全県すべてが15分圏内という全国的にも珍しい地理的条件下にあります。全国平均を上回る救命率の向上が期待されます。

私は、ドクターヘリの導入を13年間訴えつ続けてきました。ヘリの導入に

よって「県立中央病院救命救急センター」の医療資源の活用が図れると考えたからです。人口90万人未満という山梨県にとって、「医療資源の活用」は大きな課題です。県民のみなさんは首都圏並みの医療機関が欲しいというのが希望であると思います。しかし、高額医療機器を備えた病院を建設し、運営をしていくことは財政面からも並大抵なことではありません。将来的には計画していくにしても、現実的には他病院とのネットワークを構築していくことが効果的です。

ドクターヘリの本県への導入を契機に、県立中央病院への機能集約と他の医療機関との積極的な連携が進められていくよう積極的に発言していきたいと考えています。



おにぎりひとつ、水一杯の大切さ。風雨を凌ぐ家があって、寄り添う家族がいてくれる大切さ。暮らしの安全、エネルギー、家族や地域の方々の絆など私たちのこれまでの考え方や価値観を変え、人と人とのつながりを改めて認識させてくれました。時に災害をもたらしながらも、私たちに恵を与え続け、希望をもたらしてくれる「自然の力」。度重なる災害に立ち向かい、乗り越え、次の世代に希望をつなぐ「人の力」。未来への活力を支える「地

「自然の力」、「人の力」、「地と知の力」

笛吹市 山下 政樹 やました まさき

と知の力」。これらの3つの力がこれらの地域再生に大きな可能性を呼び込む力となるのではないでしょう

か。私たちの古里・山梨には雄大な富士山をはじめ、豊かな森、山、川があります。「自然の力」です。そしてその中に先人が作り出した見事な果樹地帯が広がっています。

「人の力」。地域消防団をはじめ多くの方々にボランティア活動を通じて日々地域のために力を注いでいただいています。

そして「自然の力」、「人の力」をまとめあげる「地と知の力」こそが我々議会と行政とが切磋琢磨することにより生まれる力と考えます。

県民の幸せ度を高め、明日への希望を持てる地域に近づけるよう今後さらに邁進して行く所存であります。



「チームプレーと私」

甲府市 仁ノ平 尚子 にのひら ひさこ

この一年、私はこれまでにない緊張とプレッシャーの中で仕事を続けてきました。初当選の新人三名を迎え、計七名の新・明全会が結成されて一年。県議になってそのほとんどを一人会派で生きてきた私にとって、会派の一員ということ意識して議会活動することは、これまでとは違う緊張がありました。

九月議会、本会議の代表質問では、これで会派を代表する内容になっているだろうかと悩み、心を砕きました。

私は土木森林環境委員会に所属していましたが、明全会からは私一人なので、自分の発言が会派の意向と違わぬよう、かつ、的確に問題提起できるよう、苦心しました。

特に、この委員会は、談合、林業公社、森林環境税、議事堂改修など、意見の対立する懸案事項を抱えていたのでなおさらでした。

そうした中で、私はこれまで以上に勉強する一年となりました。会派への責任を負うということは、勉強し、自分を成長させることになるのだなと、うれしく振り返っています。

今後は会派としてのチームプレーを大切にすると同時に、メンバーそれぞれが、その得意の分野や個性を磨き、その力を明確に発揮すること。そのことが、明全会をさらに強く、魅力ある会派にしていくと今は確信しています。

新・明全会、これから二年目です。私も、頑張ります。



「県民のために、何をすべきか」を原点に…

富士吉田市 早川 浩 はやかわ ひろし

私が県議会に議席をいただいてから、1年が過ぎました。議会の本来の役割である「二元代表制」を順守し、県民の皆様にとって山梨県の施策の中で、何が必要で、何が不要なのかをしっかりとチェックすることが必要であると痛感しました。

県議会の役割は、県政のチェックとサポートであり、「県民のために、何をすべきか」を原点に、「ムダ」があるものは、厳しくチェックする姿勢が必要です。

この間、私は、定期的な朝の街頭演説や、市民対話集会を開催してきました。また会派の明全会としてのタウンミーティングにも、甲

府市、笛吹市、富士吉田市で、参加させていただきしました。その中で強く感じたことは、県民の皆様との対話を通して「県民と県政」との双方向での相互理解を深めていくことが重要であり、それこそが県民の皆様が政治参加や議会への関心に繋がるものということでした。

山梨県は、リニア中央新幹線や富士山世界文化遺産登録など明るい話題があります。これは、山梨の観光や産業にとって、大きなプラスになるはずです。反面、建設や登録というハード面だけでなく、それを「いかに、活かすか!」というソフトの部分が重要です。私は、リニアや富士山を山梨県のために最大限に活用するため、県政をしっかりサポートし、県政に対して積極的に提案していきます。「県民のために、何をすべきか」を原点に!!

「若いだけではない政治家に」

甲府市 永井 学 ながい まなぶ

早いもので、県議会議員になって1年が過ぎました。この間「明全会イズム」をたっぷり吸収した時間でした。明全会にいたからこそ、本会議での一般質問、予算・決算特別委員会など様々な機会を与えていただき貴重な体験をさせていただきました。

平成23年度は特に、少子化対策 (不妊、子育て支援など) と高齢者の方の生きがい作りに対して力を入れて取り組みました。また、広聴広報機能の強化について、「県の新たな情報発信としてツイッターの活用」を提言させていただきました (本年2月に開設)。

丹澤代表の「目的があって、初めて手段を考えることができる」という言葉を今、改めて考えています。どんな山梨県にしたいのか? そのためには何をしなければならぬのか、そして山梨県議会はどう変わっていけばいいのかが毎日が勉強の日々です。

私が思う山梨県。それは誰もがここに住んでいる

ことを誇りに思える、そして愛することができる山梨県を創りたい。そのためにこの30代の感性や考えを思い切り山梨県政にぶつけています。

でも、若いだけの議員ではなんの意味もありません。現役最年少議員の私。「永井君は若いね」とよく言われます。若さプラス自分の信念を持った筋のある政治家になりたい、と考えています。

2年目のシーズン。若さプラスアルファで、大好きな明全会の仲間の方々と共に、荒れ狂う山梨県議会をガッツで進んでまいりたいと思います。

ます。自然の力をさまざまな形で活かすクリーンエネルギーの先進県、先進地域になるよう、議員1年目ながら、取り組みに対して強く県の背中を押してきました。また、がん対策委員として山梨で初めての条例となる、がん対策条例制定の一員として活動を行いました。

今後は、少子、高齢化対策及び、男女共同参画社会、福祉問題等について取り組んで参りたいと考えております。

まだまだ県民の代表としての活動は緒についたばかりです。今後も自己研鑽に励み、知見を広め、地域のみなさま、県民のみなさまの期待に応えることができるよう、邁進していく所存ですので、今後是非応援をよろしくお願いいたします。

「自己研鑽に励む」

北杜市 大柴 邦彦 おおしば くにひこ

平成23年4月、山梨県議会議員として県民の付託を受け、会派明全会の一員として議員活動を始めました。

初めての議員活動でありますので先輩議員に教えを請いながら、1年目の新人議員として、まずは、廃棄物最終処分場や鳥獣害対策などが地元北杜市が抱えるもろもろの問題を中心に、本会議、委員会での発言の機会を通じて県政に訴える活動を行ってきました。今後も引き続き注意深く見守り、積極的に関与していく覚悟です。

過去から続いている課題に限ることなく、この自然豊かな山梨を、次世代へ受け継ぐため、将来へ向けた取り組みにつきましても、積極的にアプローチして参りました。特に震災以降のクリーンエネルギー移行への課題は、山梨のみならず日本、そして世界的な趨勢であると考えてい

